

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2017年2月13日

【四半期会計期間】 第136期第3四半期
(自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)

【会社名】 東レ株式会社

【英訳名】 TORAY INDUSTRIES, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 日 覺 昭 廣

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

【電話番号】 03(3245)5201(直通)

【事務連絡者氏名】 経理部長 石 井 俊 哉

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

【電話番号】 03(3245)5201(直通)

【事務連絡者氏名】 経理部長 石 井 俊 哉

【縦覧に供する場所】 東レ株式会社大阪本社
(大阪市北区中之島三丁目3番3号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第135期 第3四半期 連結累計期間	第136期 第3四半期 連結累計期間	第135期
会計期間	自 2015年4月1日 至 2015年12月31日	自 2016年4月1日 至 2016年12月31日	自 2015年4月1日 至 2016年3月31日
売上高 (百万円)	1,580,267	1,492,153	2,104,430
経常利益 (百万円)	117,737	115,485	150,170
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	76,170	76,869	90,132
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	55,493	81,369	12,890
純資産額 (百万円)	1,069,144	1,082,459	1,024,909
総資産額 (百万円)	2,417,189	2,413,348	2,278,386
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	47.65	48.07	56.38
潜在株式調整後1株当 り四半期(当期)純利益 (円)	47.59	48.02	56.31
自己資本比率 (%)	40.9	41.5	41.5

回次	第135期 第3四半期 連結会計期間	第136期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2015年10月1日 至 2015年12月31日	自 2016年10月1日 至 2016年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.72	14.67

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 百万円単位の金額は、百万円未満を四捨五入して表示している。
- 3 売上高には、消費税等を含まない。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

連結子会社の吸収合併について

当社は、2016年12月19日開催の取締役会において、当社100%出資の連結子会社で、リチウムイオン二次電池(LIB)用セパレータの生産・販売事業を行っている東レバッテリーセパレータフィルム㈱(以下「東レBSF」)を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結した。

(1) 合併の目的

LIB市場では、従来の民生用電子機器用途に加えて車載用途の急速な量的拡大が見込まれるなど、事業環境が大きく変化しており、LIB用セパレータにおいても成長や機能の高度化への迅速な対応力が、一層重要になってきている。当社はこうした認識に立って、今後とも適切にLIB用セパレータ事業の拡大に対応するための体制基盤強化を目的として、東レBSFを吸収合併することとした。

(2) 合併の要旨

合併の日程

合併契約承認決定日 2016年12月19日

合併契約締結日 2016年12月19日

合併期日(効力発生日) 2017年4月1日(予定)

(注) 本合併は当社においては会社法第796条第2項に定める簡易合併であり、東レBSFにおいては会社法第784条第1項に定める略式合併であるため、それぞれ合併契約承認に関する株主総会は開催しない。

合併の方式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、東レBSFは解散する。

合併に係る割当ての内容

当社は東レBSFの発行済株式のすべてを所有しているため、本合併に際して、株式その他金銭等の交付及び割当ては行わない。

(3) 合併当事会社の概要

	吸収合併存続会社	吸収合併消滅会社
名称	東レ㈱	東レバッテリーセパレータフィルム㈱
事業内容	繊維、プラスチック・ケミカル製品等の製造及び販売	合成樹脂フィルムの製造、加工及び販売
資本金	147,873 百万円	301 百万円
純資産	527,985 百万円	31,939 百万円
総資産	1,232,258 百万円	46,120 百万円

(注) 上記の概要は、2016年3月31日現在のものである。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国や欧州では、一部に改善の遅れが見られたものの、景気は回復基調が持続した。中国は足元で景気が持ち直しに向かい、他の多くの新興国でも景気は持ち直しの動きが見られた。国内経済については、雇用・所得環境の改善を背景に、基調としては緩やかな景気回復が続いた。

為替は、米国ドルをはじめ主要通貨に対して前年同四半期連結累計期間よりも円高の水準で推移し、海外子会社の円換算売上高・利益が減少するなどの影響を受けた。

このような事業環境の中で、当社グループは、2014年度から2016年度の3ヵ年を期間とする中期経営課題“プロジェクトAP-G 2016”に基づき、「成長分野・事業機会の取り込み」及び「成長国・地域での事業拡大」を要とした成長戦略を実行するとともに、トータルコスト競争力の更なる強化に努めている。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期連結累計期間比5.6%減の1兆4,922億円、営業利益は同3.3%減の1,142億円、経常利益は同1.9%減の1,155億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同0.9%増の769億円となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

(繊維事業)

国内では、衣料用途・産業用途とも需要が引き続き低調に推移する中で、全般的に拡販に努めるとともに、糸綿/テキスタイル/製品一貫型ビジネスの推進をはじめとする事業の高度化や原価改善を進めることで採算の改善に注力した。

海外では、衣料用途を中心に、欧州や中国などにおける需要低迷の影響を受けた。一方、自動車関連用途向けや衛生材料向けは総じて堅調に推移した。

以上の結果、繊維事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比6.9%減の6,460億円、営業利益は同3.7%減の541億円となった。

(プラスチック・ケミカル事業)

樹脂事業は、自動車関連用途向けの出荷が国内外とも概ね堅調に推移した。自動車以外の用途でも、ABS樹脂などの拡販を進めた。フィルム事業は、海外では欧米を中心に需要が低調であったが、国内では包装用途向けが堅調であった。一部のケミカル製品は、円高や市況悪化の影響から販売価格が下落した。

また、多くの製品が国内外で価格競争の影響を受けたが、高付加価値品の拡販や原価改善に注力することで採算の改善に努めた。

以上の結果、プラスチック・ケミカル事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比6.1%減の3,618億円、営業利益は同3.3%増の252億円となった。

(情報通信材料・機器事業)

フラットパネルディスプレイ向けでは、スマートフォンやタブレット端末の関連材料は、有機EL用途向けの出荷が拡大するなど、堅調に推移した。

リチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレータフィルムは、需要の伸長を背景に、出荷が拡大した。

多くの用途で価格競争の影響を受けたが、高付加価値品の拡販や原価改善に注力することで採算の改善に努めた。

以上の結果、情報通信材料・機器事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比2.0%増の1,912億円、営業利益は同24.7%増の242億円となった。

(炭素繊維複合材料事業)

航空機の最終需要は堅調に推移したが、サプライチェーンにおける在庫調整などを反映して、炭素繊維中間加工品(プリプレグ)の需要は弱含みで推移した。圧縮天然ガスタンク向けでは、原油価格下落の影響を受けて、需要が低調に推移した。一方、風力発電翼用途は、需要の拡大を背景に、出荷を拡大した。

以上の結果、炭素繊維複合材料事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比15.5%減の1,184億円、営業利益は同22.2%減の206億円となった。

(環境・エンジニアリング事業)

水処理事業は、逆浸透膜などの拡販を進めたが、日本からの輸出は円高進行の影響を受けた。

国内子会社では、エンジニアリング子会社の産業機器やプラント工事が堅調に推移した。

以上の結果、環境・エンジニアリング事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比3.1%増の1,260億円、営業利益は同48.5%増の50億円となった。

(ライフサイエンス事業)

医薬事業は、経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*が、2015年に取得した効能追加承認を背景に販売数量を伸ばしたが、2016年4月の薬価改定の影響を受けた。天然型インターフェロン製剤フェロン[®]や経口プロスタサイクリン誘導体制剤ドルナー[®]の出荷は、代替治療薬や後発医薬品の影響を受けて低調に推移した。

医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が国内外で堅調に推移した。

以上の結果、ライフサイエンス事業全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比6.7%減の381億円、営業利益は同73.4%減の5億円となった。

*レミッチ[®]は、鳥居薬品(株)の登録商標である。

(その他)

売上高は前年同四半期連結累計期間比0.1%減の106億円、営業利益は同24.8%減の7億円となった。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が対処すべき課題について、重要な変更はない。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費総額は427億円である。

(4) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、資産の部は、受取手形及び売掛金やたな卸資産、有形固定資産が増加したことを主因に前連結会計年度末比1,350億円増加の2兆4,133億円となった。

負債の部は、有利子負債が増加したことを主因に前連結会計年度末比774億円増加の1兆3,309億円となった。

純資産の部は、純利益の計上による利益剰余金の増加などにより前連結会計年度末比576億円増加の1兆825億円となり、このうち自己資本は1兆4億円となった。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000,000
計	4,000,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2016年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2017年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,631,481,403	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株 である。
計	1,631,481,403	同左		

(注) 当社は、2017年2月9日開催の取締役会において、2017年4月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更することを決議している。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年12月31日		1,631,481		147,873		136,727

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないため、直前の基準日である2016年9月30日現在で記載している。

【発行済株式】

2016年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 31,493,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,595,011,000	1,595,011	
単元未満株式	普通株式 4,977,403		
発行済株式総数	1,631,481,403		
総株主の議決権		1,595,011	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、(株)証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれている。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が444株及び(株)証券保管振替機構名義の株式が126株含まれている。

【自己株式等】

2016年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東レ(株)	東京都中央区日本橋室 町 2 - 1 - 1	31,493,000		31,493,000	1.93
計		31,493,000		31,493,000	1.93

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりである。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 複合材料事業本部長	常務取締役 複合材料事業本部長 コンポジット事業部門長	須賀 康雄	2016年10月1日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自2016年10月1日至2016年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自2016年4月1日至2016年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	120,168	142,510
受取手形及び売掛金	402,220	4 442,672
商品及び製品	229,199	237,380
仕掛品	75,992	83,295
原材料及び貯蔵品	88,843	99,184
その他	94,928	4 108,624
貸倒引当金	1,791	1,778
流動資産合計	1,009,559	1,111,887
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	250,919	257,080
機械装置及び運搬具（純額）	380,751	397,195
土地	76,942	76,456
建設仮勘定	97,497	101,296
その他（純額）	24,503	26,013
有形固定資産合計	830,612	858,040
無形固定資産		
のれん	54,299	48,106
その他	32,860	31,889
無形固定資産合計	87,159	79,995
投資その他の資産		
投資有価証券	256,020	264,274
その他	98,465	102,425
貸倒引当金	3,429	3,273
投資その他の資産合計	351,056	363,426
固定資産合計	1,268,827	1,301,461
資産合計	2,278,386	2,413,348

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	213,143	4 218,417
短期借入金	135,960	131,716
1年内返済予定の長期借入金	48,497	104,860
コマーシャル・ペーパー	6,000	70,000
未払法人税等	15,815	18,278
引当金	20,280	12,455
その他	131,653	4 141,637
流動負債合計	571,348	697,363
固定負債		
社債	140,010	140,005
長期借入金	370,339	316,110
引当金	2,682	1,227
退職給付に係る負債	104,803	104,411
その他	64,295	71,773
固定負債合計	682,129	633,526
負債合計	1,253,477	1,330,889
純資産の部		
株主資本		
資本金	147,873	147,873
資本剰余金	119,180	118,814
利益剰余金	614,334	668,741
自己株式	21,163	20,815
株主資本合計	860,224	914,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	61,272	71,790
繰延ヘッジ損益	490	394
為替換算調整勘定	29,270	20,951
退職給付に係る調整累計額	4,708	6,571
その他の包括利益累計額合計	85,344	85,776
新株予約権	1,181	1,119
非支配株主持分	78,160	80,951
純資産合計	1,024,909	1,082,459
負債純資産合計	2,278,386	2,413,348

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
売上高	1,580,267	1,492,153
売上原価	1,249,257	1,171,313
売上総利益	331,010	320,840
販売費及び一般管理費	212,897	206,640
営業利益	118,113	114,200
営業外収益		
受取利息	1,199	947
受取配当金	3,167	3,168
持分法による投資利益	4,332	6,757
雑収入	3,579	4,851
営業外収益合計	12,277	15,723
営業外費用		
支払利息	4,285	3,571
休止設備関連費用	3,078	3,148
雑損失	5,290	7,719
営業外費用合計	12,653	14,438
経常利益	117,737	115,485
特別利益		
有形固定資産売却益	377	998
投資有価証券売却益	2,795	453
その他	378	25
特別利益合計	3,550	1,476
特別損失		
有形固定資産処分損	4,364	4,113
投資有価証券評価損	1,773	543
その他	213	713
特別損失合計	6,350	5,369
税金等調整前四半期純利益	114,937	111,592
法人税等	33,754	29,495
四半期純利益	81,183	82,097
非支配株主に帰属する四半期純利益	5,013	5,228
親会社株主に帰属する四半期純利益	76,170	76,869

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
四半期純利益	81,183	82,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	664	10,493
繰延ヘッジ損益	111	282
為替換算調整勘定	26,163	4,511
退職給付に係る調整額	1,275	1,746
持分法適用会社に対する持分相当額	1,577	5,246
その他の包括利益合計	25,690	728
四半期包括利益	55,493	81,369
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	52,971	77,301
非支配株主に係る四半期包括利益	2,522	4,068

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

1 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間から、重要性が増加したことにより2社を連結の範囲に含めた。また、第2四半期連結会計期間から、重要性が増加したこと等により3社を連結の範囲に含め、合併により1社を連結の範囲より除外した。さらに、当第3四半期連結会計期間から、合併等により2社を連結の範囲より除外した。

2 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間から、設立等により3社を持分法適用の範囲に含め、重要性が増加し連結の範囲に含めたこと等により3社を持分法の対象より除外した。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 2016年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

他社の銀行借入等に対し、下記のとおり保証を行っている。

(1) 非連結子会社及び関連会社

前連結会計年度 (2016年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)	
F Tホールディングス(株)	5,750百万円	Suido Kiko Middle East Co.,Ltd.	4,069百万円
Suido Kiko Middle East Co.,Ltd.	3,937 "	Toray Membrane Middle East LLC	909 "
P.T. Petnesia Resindo ほか5社	1,596 "	P.T. Petnesia Resindo ほか5社	1,423 "
計	11,283百万円	計	6,401百万円

(2) 非連結子会社及び関連会社以外

前連結会計年度 (2016年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)	
住宅購入者ほか	9,047百万円	住宅購入者ほか	854百万円
従業員に対するもの	101 "	従業員に対するもの	90 "
計	9,148百万円	計	944百万円

2 債権流動化に伴う買戻義務

前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
9,573百万円	5,125百万円

3 貸出極度額の総額及び貸出実行残高

当社は、グループ内の効率的な資金調達及び運用を行うため、子会社及び関連会社への資金提供を行っている。当該業務における非連結子会社及び関連会社に対する貸出極度額の総額及び貸出実行残高は次のとおりである。

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
貸出極度額の総額	400百万円	280百万円
貸出実行残高	156 "	149 "
差引額	244百万円	131百万円

なお、上記業務においては、各社の財政状態と資金繰りを勘案し資金提供を行っており、必ずしも全額が貸出実行されるものではない。

4 四半期連結会計期間末日満期手形等の処理

四半期連結会計期間末日満期手形及び四半期連結会計期間末日満期現金決済（手形と同条件で期日に現金決済する方式）については、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったが、満期日に決済が行われたものとして処理している。

四半期連結会計期間末日満期手形等の金額は次のとおりである。

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
受取手形及び売掛金		8,744百万円
流動資産のその他		360 "
支払手形及び買掛金		4,916 "
流動負債のその他		365 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
減価償却費	68,722百万円	65,054百万円
のれんの償却額	6,621 "	6,363 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2015年6月24日 定時株主総会	普通株式	9,595	6.00	2015年3月31日	2015年6月25日	利益剰余金
2015年11月10日 取締役会	普通株式	9,597	6.00	2015年9月30日	2015年12月1日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はない。

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2016年6月28日 定時株主総会	普通株式	11,196	7.00	2016年3月31日	2016年6月29日	利益剰余金
2016年11月8日 取締役会	普通株式	11,200	7.00	2016年9月30日	2016年12月1日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	繊維事業 (百万円)	プラスチック・ケミカル事業 (百万円)	情報通信材料・機器事業 (百万円)	炭素繊維複合材料事業 (百万円)	環境・エンジニアリング事業 (百万円)	ライフサイエンス事業 (百万円)	その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損益計算書計上額 (百万円) (注)3
売上高										
外部顧客への売上高	693,572	385,391	187,552	140,054	122,231	40,877	10,590	1,580,267		1,580,267
セグメント間の内部売上高又は振替高	805	15,117	5,472	268	41,721	4	12,204	75,591	75,591	
計	694,377	400,508	193,024	140,322	163,952	40,881	22,794	1,655,858	75,591	1,580,267
セグメント利益	56,188	24,442	19,421	26,492	3,396	1,814	994	132,747	14,634	118,113

(注) 1 その他は分析・調査・研究等のサービス関連事業である。

2 セグメント利益の調整額 14,634百万円には、セグメント間取引消去238百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 14,872百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない本社研究費等である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	繊維事業 (百万円)	プラスチック・ケミカル事業 (百万円)	情報通信材料・機器事業 (百万円)	炭素繊維複合材料事業 (百万円)	環境・エンジニアリング事業 (百万円)	ライフサイエンス事業 (百万円)	その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損益計算書計上額 (百万円) (注)3
売上高										
外部顧客への売上高	646,000	361,800	191,216	118,371	126,043	38,145	10,578	1,492,153		1,492,153
セグメント間の内部売上高又は振替高	761	12,116	5,269	400	49,263	2	12,360	80,171	80,171	
計	646,761	373,916	196,485	118,771	175,306	38,147	22,938	1,572,324	80,171	1,492,153
セグメント利益	54,118	25,249	24,218	20,605	5,044	482	747	130,463	16,263	114,200

(注) 1 その他は分析・調査・研究等のサービス関連事業である。

2 セグメント利益の調整額 16,263百万円には、セグメント間取引消去 401百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 15,862百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない本社研究費等である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	47円65銭	48円07銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	76,170百万円	76,869百万円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	76,170百万円	76,869百万円
普通株式の期中平均株式数	1,598,559千株	1,599,038千株
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	47円59銭	48円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 調整額		
普通株式増加数	1,955千株	1,790千株

2 【その他】

2016年11月8日開催の取締役会において、定款第37条の規定に基づき、2016年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を実施する旨、決議し、配当を行っている。

- | | |
|------------------------|--------------|
| (1) 中間配当金総額 | 11,200百万円 |
| | (1株につき7円00銭) |
| (2) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2016年12月1日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2017年2月13日

東レ株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	鈴木	一	宏
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	磯貝		剛
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中野		強

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東レ株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2016年10月1日から2016年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東レ株式会社及び連結子会社の2016年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。